

令和5年度 学習分析事業 改善計画 三原市立第三中学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		国語	社会	数学	理科	英語	全体
1年	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	本年度結果 偏差値平均	47.7	49.7	47.0	47.3	48.2	48.0
2年	前年度結果 偏差値平均	49.3	50.7	50.7	51.0	50.5	50.4
	本年度結果 偏差値平均	49.5	50.6	47.4	48.1	48.1	48.7
3年	前年度結果 偏差値平均	50.4	51.6	46.7	46.8	52.0	49.5
	本年度結果 偏差値平均	50.1	50.4	47.7	49.2	50.5	49.6
全体	前年度結果 偏差値平均	48.8	50.6	48.0	47.5	49.6	48.9
	本年度結果 偏差値平均	49.1	50.2	47.4	48.2	48.9	48.8

②学習環境分析 Q-U【1回目】

		1年	2年	3年	全体
一次支援	人数(人)	67	66	76	209
	割合(%)	50.8	52.0	53.9	52.2
二次支援	人数(人)	55	51	52	158
	割合(%)	41.7	40.2	36.9	39.6
三次支援	人数(人)	10	10	13	33
	割合(%)	7.6	7.9	9.2	8.2
学習意欲	学年(点)	16.6	14.7	15.8	15.7
	全国(点)	15.3	15.3	15.3	15.3

③全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	数学	英語
前年度結果 (対県比)	68.5 (99)	46.9 (93)	/
本年度結果 (対県比)	72.0 (103)	46.5 (94)	45.9 (106)

④学習環境分析 Q-U【2回目】

		1年	2年	3年	全体
一次支援	人数(人)	100	78	103	281
	割合(%)	80.6	64.5	75.7	73.8
二次支援	人数(人)	21	36	31	88
	割合(%)	16.9	29.8	22.8	23.1
三次支援	人数(人)	3	7	2	12
	割合(%)	2.4	5.8	1.5	3.1
学習意欲	学年(点)	16.0	14.4	15.9	15.4
	全国(点)	15.3	15.3	15.3	15.3

2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <p>学校としての課題は、「基礎的事項の習得」及び、「問題を正確に読み取る力の不足」である。</p> <p>●国語では、1年生の漢字の書き取りが全国比7と著しく低く、全6問中、通過率が20%台の問題が3問もあった。2、3年生ではいずれも、「当てはまらないもの」を選ぶ問題の通過率が2年:29%、3年:13%と低く、問題を「最後まで読んでいない」「思い込みで解いている」状況が見取れる。これは、他教科でも見られる傾向で、3年生の社会でも、「含まれていないもの」を答える問題の通過率(57%)が、全国と比べて25%も低かった。</p> <p>●数学では、一次関数の傾きに関する問題の通過率が14%と低い。問題や会話文からグラフの傾を読み取ることができていない。伴って変わる関数が実生活に深くかかわっていることや、良さ・有用性が実感として持てていない。</p> <p>●英語では、正しく書くことに課題があり、通過率の低さが、いずれの学年も「語順に対する理解の不足」「語彙の不足」によるものだった。特に1年生では、通過率0%の問題が2問あり、「自分に関する英語を書く」領域が全国比30だった。2、3年生でも、2年:10%、3年:34%と、低い通過率であった。</p>	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p>●国語では、「漢字の書き取り」「古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉える」問題に課題があった。書き取りでは、「推しはかる」という漢字の正答率が46%だった。「推す」という漢字は「推し活」のイメージが強いためだと思われる。「古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉える」問題では、正答率が56.2%であり、問題を読めない課題がある。</p> <p>●数学では、「自然数」「平面の決定要件」「反比例の比例定数」「四分位範囲」の問題に大きな課題がある。特に「四分位範囲」では全国平均より17.2%も低く課題は顕著である。数学的な用語を用いて表現し合う場が不足している。同類項のみまとめる計算も70.3%と全国平均-10.2%であり、単位数量に拘る意識付けが徹底されていない。</p> <p>●英語では、まとまりのある英文を書く、内容を話すに課題がある。大問8(2)では、正答率が21.0%であり、英作文の条件を満たしていないものが29.7%であった。大問10においても、条件を満たさない誤答が50.0%であった。「話すこと」においても、[発表]の問題が著しく正答率が低いことから、まとまりのある文を書くこと、考えることに課題があると考えられる。</p>
<p>【学級・学年集団について】(1回目のQ-Uをうけて)</p> <p>●「ゆるみのある学級集団」が3学年に1学級、「学級内の規律と人間関係が不安定」が2学年に2学級あった。</p> <p>●学習意欲については、2学年の全学級が全国平均を下回っている。</p>	<p>【学級・学年集団について】(2回目のQ-Uをうけて)</p> <p>●2学年の学習意欲が全国の平均を下回っている。</p> <p>●2学年の一次支援の割合は他学年に比べて低くなっている。</p>

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

(※毎月のブロック訪問や授業研で参観させていただきます。また、重点取組は、第2回の指導力向上研修において事例として別紙にまとめ紹介させていただきます。)

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>○全教諭が「伝える」に力を入れ、パブリックスピーキング能力を向上させる。</p> <p>○全ての授業で「授業づくりの徹底5項目」に基づく指導[①めあての提示、②めあての焦点化、③思考時間の確保、④ペア学習・グループ学習、⑤めあてに対する振り返り]を完全実施する。</p> <p>○全教諭が「問いの設定」を意識することで、つけたい力をより明確にした指導を徹底する。</p> <p>○各教科で培うべき知識や技能の確実定着と活用場面を設定した「生きて働く学力」を育む。</p> <p>○主体的・対話的な学習を通して「深い学び」に迫るアウトプットを重視する。</p>	<p>①NRTの誤答分析による実態把握と改善計画の立案</p> <p>②学校経営会議において改善計画の共有</p> <p>③全体研修による目指す授業の共有</p> <p>④一人1指導案による研究授業</p> <p>⑤授業交流週間 (1学期:3年部、2学期:2年部、3学期:1年部)</p> <p>⑥非連続型テキスト問題(全国学力調査過去問題)実施 (各教科の単元末、GKタイム期間集中実施 試験形式によりフルバージョン実施)</p> <p>⑦無答率の分析・個別指導(再テスト含む)・積み残しの復習</p> <p>⑧学力補充指導の組織的な展開とともに、生徒のアウトプット評価、変容の追跡調査による分析と指導方法の改善</p> <p>⑨家庭学習の充実と定着 ⑩「まとめ」と「振り返り」の徹底</p>	<p>①6月</p> <p>②6月</p> <p>③4月、7月、8月、11月、2月</p> <p>④通年</p> <p>⑤1学期に2週間程度</p> <p>⑥各教科単元末 令和5年2月GK集中実施 2月下旬、3月中旬</p> <p>⑦定期試験実施後、通年</p> <p>⑧8月推進委員会</p> <p>⑨通年</p> <p>⑩12月「振り返り」の交流と研修より良い「振り返り」を記載</p>	<p>○Q-U2回目の学習意欲の数値(全学級で全国得点+1以上)</p> <p>○標準学力調査(3学期実施)で全国比100を超える学年・教科を増やす。</p> <p>○定期試験等における記述型問題の無答率半減</p> <p>○1時間以上家庭学習を行う生徒の割合70%以上</p> <p>○「まとめ」と「振り返り」により『深い学び』に迫る授業実施80%以上</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○全学級において「三中スタンダードの遵守」を徹底する。</p> <p>○全校での「三中チャレンジカップ」を通して、クラスや縦割り学級の団結力や生活規律・学習規律の向上を目指す。</p> <p>○ピグマリオン効果が実感できる生徒理解とともに、自己存在感が高まる評価や支援を実施する。</p>	<p>①Q-Uの分析による実態把握と改善計画の立案</p> <p>②Q-Uの分析、実態把握のために校内研修を実施。</p> <p>③学校経営会議において、各学級の事態と改善計画の共有化。</p> <p>④「心の中の整理箱」を活用した面談により、生徒の心身の状況を把握し、早期発見と早期解決。</p> <p>⑤学級目標や具体的な行動目標を設定するとともに、小刻みに自己評価と他者評価を実施。</p>	<p>①6月</p> <p>②8月</p> <p>③毎月</p> <p>④毎学期</p> <p>⑤毎月</p>	<p>○Q-U2回目において、一次支援数値の向上(全学級)</p> <p>○生徒アンケート「先生や友達は相談できる」「自分には良いところがある」の肯定的意識+5%</p>

4. 課題解決に向けた重点取組を振り返って

<p>【今年度の成果と次年度にむけた改善点】</p> <p>○「標準学力調査」では、1年生は5教科とも、2年生は国・社・数・理が全国比100を超えた。2年生英語も、全国比98と、ほぼ全国平均に達している。学年平均の偏差値はNRTと比較し、1年が2ポイント、2年が3.2ポイント向上した。</p> <p>●正答率40%未満の生徒が、5教科平均で、1年生に21.4人、2年生には27.8人いる。</p> <p>●「三中チャレンジカップ」を通して培われた力を、生徒同士の関係性の向上のみならず、学力向上にもつなげる。</p>

5. 次年度学力調査の目標値

学力定着分析 NRT 偏差値平均

		国語	社会	数学	理科	英語	全体
新2年	目標値 偏差値平均	50	50	50	50	50	50
新3年	目標値 偏差値平均	50	50	50	50	50	50

全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	数学
目標値 (対県比)	75 (110)	50 (105)